国立白門会ニュース

第 11 号
国立市富士見台1-1-201
村 田 亘
TEL75－2020
印刷 大矢印刷

第十一号発刊に寄せて…

副支部長 **井上定男**

母校が百周年を迎えることになりました。誠におめでたいことであります。祝賀会はじめ多彩な百周年記念行事の日程も、ほぼ決定したようであります。わが国立支部の直接的な行事への協力は、五月に国立市で開催される記念講演会を成功させることです。

国立高校出身の直木賞作家志茂田景樹氏が講師の一人に選ばれておりますのでご期待ください。

さて、母校の思い出は、皆さんそれぞれにおありでしょうが、私が最近「健康法は」と問われて懐かしく思うことに、課外の五葉会があります。五葉会は当時、ポスターを掲示して教室に学生を集め、立田先生による禅海一らんの講座を主催しておりました。はじめはひやかし気分でしたが、だんだん引かれて市川の道場に通い、叔父の忠告を無視するほどにのめり込みました。公案を抱いての七転八倒ぶりは、隣りの式場病院の患者と同視されるほどであったようです。見性の喜びは格別で、眼界が開け、妹の死に会ってから思い悩んでいた「人間とは何か、生きるとは何か」を脱け出しました。教職についてからは、「己れを知ること、そして生徒を知ることは教育の基礎である」との信念が生まれました。「坐る」ことは今も続けておりますが、少年時代の弱かった体は丈夫になり、人一倍にいろいろの役職をこなすことができました。学生時代の体験が生涯の心身の健康法になりそうです。

私事を述べましたが、ごあいさつのことばに代えさせていただきます。

事業部から…

■市民祭への参加

国立市の市民祭も年を経る毎に多摩地区では有名になり、昨年は約十二万人が参加し大変な賑わいだったようです。

私達白門会も、もう参加団体として、すっかり常連となり、バザーコーナーと、無料相談コーナーを設け、共に大変な賑わいようでした。

(1)、バザーでは、一昨年は生憎く雨天で中止になり皆様から出品していただいた品々と昨年更に出品していただいた品々も合わせ出品させてもらいましたが、午前中にその全部を売り切る大盛況振りで、急ぎ北海道名産の日高コンブをも出品したのですが、これもまたたく間に売り切れ、午後はすっかり手持ち無沙汰になる状況でした。

本年もバザーは続けたいと考えております。皆様今から不要品等ございましたら、秋の市民祭には是非ご出品下さるよう協力をお願いいたします。

尚、別途会計報告の如く売上の一部を福祉の方に寄付をいたしました。

(2) 法律・税務・不動産の無料相談コーナーは、本学出身の諸先生にお願いして開設いたしました。市民や近隣市民の方々十八名が真剣になって相談に来られました。

振り返って考えて見ますと国立白門会も発足以来七年を経て、今ではこの白門会ニュースも十一号発行の運びとなり、国立白門会の名も市内では可成り知られるようになり、市の文化活動等を経て、大変よろこばれるようになって参りました。

■母校百周年講演会

母校中央大学が多摩に移転して来た事とも相成って母校に於ても熱心に地域住民に寄与するようになり一昨年は十月三十日国立市公民館に於て、少年問題やら、健康と福祉を主テーマに二名の講師が来られ、約九十名の聴講者に講演をしていただきました。

本年は開校百周年を記念して中央大学が主催で国立市、同教育委員会、国立高校及び私達の国立白門会等の協賛による講演会をこの五月二五日(土)午後三時〜六時の約三時間にわたり講演をいたします(講師二名)。

講演は無料で市民へのアピール費用等も母校で負担していただき、くにたち市報や一部のマスコミへの費用まで負担していただくようになりました。議題や講師も別項のように決まりました。一般市民への講演ではありますが、私達会員の方々も成るべく多くの聴講を願っております。

■あれこれ考える会

昨年は第一回目でもありましたので、十一月十七日に国立市当局にもお願いし、企画広報部長の卯月平吉様をお招きし、国立市の市政の現状と課題について約三時間、大変身近な問題だけに大いに参考にさせていただきました。

今年も前記の百周年記念講演の後、六月末か七月初め頃に会員の皆様の多くのご出席を願って座談会的形式で、大いに皆様のご意見を出していただき、幸い私達白門会から市会議員の井上正博氏を議会に送っておる事でもあり、彼からの市政の状況等を伺いながら、下水道の問題やら、教育、交通、都市造り等より具体的な問題を語ってみようではありませんか。市の財政やら、大学通りや駅前広場、交通信号等各自思いついた問題等より住み良くする為の問題等大いに語って見ましょう。

受章　喜びのお二人!!

■勲五等双光旭日章の栄に輝く

本会副会長　井上定男氏

（写真は冒頭記事を参照）

井上先輩は昭和一六年法学部をおえられたが、主として高等学校の定時制通信制教育の振興に情熱を傾けられ、全国高等学校主事協会の理事長まで勤めあげられたことが、昨秋の教育界功労者としての叙勲となった。ご夫妻は十一月三日・文化の佳節に国立劇場での授与式にのぞまれたあと皇居に参内、親しく天皇陛下からねぎらいのお言葉をいただいた由。

略歴

昭和十六年三月中央大学法学部卒業
昭和十八年九月　山形県立米沢商業学校の教壇にたつ
昭和二九年三月　東京都立第五商業高等学校教諭
昭和三九年四月　東京都立市ケ谷商業高等学校定時制主事
昭和四七年七月　全国高等学校主事協会理事長
昭和五二年三月　教職を退く
同　　年四月　弁理士登録
現在　井上法律特許事務所（千代田区内神田二の十の二）

■国立市政功労者に選ばれた

本会副会長　福谷実氏

（福谷　実氏）

福谷先輩は昭和三一年法学部ご卒業後、長らく日本赤十字社にあって広はんな博愛事業に挺身されてきたが、国立市には古い住民の一人として地域の献血推進運動に努力し地道な功績をあげられたことが、国立市長表彰の的となった。十一月三日・文化のよき日に市役所会議室で表彰状を授けられる谷市長も同窓のよしみで温顔に笑みいっぱいだった由。先輩は、俳句・書道詩吟をよくされ静的に知的な人柄は会員の多くに親しまれていることはご高承のとおり。

中大パワー爆発！

年間の大卒者は約37万人、その内約29万人が企業（官公庁を含む）に就職する。水産業から化学・鉄鋼・電気・自動車・金融・サービス業にいたる32業種の分野にわたる各大学の先輩の活躍度を、部課長級の管理職から重役陣までの人数で測ると、115大学の内一位は東大、二位早稲田、三位慶応、四位京大、五位中大となる。国立の総合大学が製造業と公益事業で強く、私大は商業、サービスといった第三次産業に強い傾向にある。今後のサービス化時代を迎えて、私大パワーの将来性は明るいといえよう。

中大卒役職者の特定業種への集中度をみると44％で、上位27校の平均集中度が48％なのをみると、特定産業に集中していないことになり、産業間での盛衰の波をモロに被る危険性は少ないといえよう。

中大卒役職者の内、従業員五、〇〇〇人以上の企業に占める割合は27％と少ないが、社会のニーズが多様化している現代では自己に挑戦できるところに将来があるのではないかと思う。（cf.週刊ダイヤモンド'85・4・20）

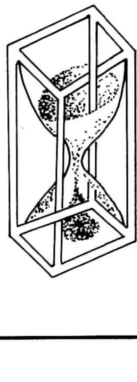
オクタマ　ドライヴ

1.日　　時　　6月2日(日)　AM9:00～PM4:00
2.集合場所　　一橋大学東校舎正門前(大学通り)　AM8:30
3.費　　用　　¥1,000円(ガソリン代等、昼食は含みません。)
4.予　　定　　秋川渓谷、月夜見峠（奥多摩有料道路)、三頭橋、深山橋、峰谷橋、奥多摩湖ダムサイト　昼食は黒茶屋(五日市)でとります。雨天中止
5.申 込 先　　山崎武(72-3948)村田亘(75-2020)　5月24日(金)までにお申し込み下さい。

目に青葉、山ほととぎす。新緑の季節です。ふるってご参加下さい。

Wine & Dinner
あなたのひとときを
イタリアンレストラン
OPEN 11:30AM～10:00PM
中1-9-4 大学通り白十字2F
TEL. 76－1401

レッドトップ
ボトル売り・カラオケなし
ブランコ通り多摩信ウラ
75－1212



新年会

今年も、一月二六日（土）に多数の出席者を迎えて、酒亭「信濃路」で新年懇親会が開かれた。今回は受章の井上・酒井両氏の祝賀会も兼ねて催された。

山崎厚生部長の司会により、福谷副会長の開会のことば、受章のお二人にペン皿の贈呈、市橋先生のご挨拶等進められていった。

丸本幹事長の音頭で乾杯となり、職場の出来事、家の回りの出来事等各氏思い思いの自己紹介のあと、市橋先生の謡曲が披露され、ウタゲは一層盛り上がっていった。締めくくりは校歌斉唱で、楽しい一夜の幕を引いた。

開会のことば

副会長 福谷 実

正月も小正月も過ぎ、すでに皆様には昭和六十年のご活躍が軌道にのっておられることと存じますが、新年初会合でもありますので改めて「新年おめでとうございます」とご挨拶申しあげます。

昨年の新年会は大雪の中行われましたが今年は雪も雨も降らない東京砂漠の中での新年会となりました。そうとう寒い毎日が続きますが皆様お元気で本日お集まり頂きましたこと大変嬉しく存じます。

昨年春に酒井博先生が勲三等瑞宝章を、更に秋に井上定男先生が勲五等双光旭日章をそれぞれ叙勲されました。また市橋千鶴子先生が白門婦人会長として中央大学学員会から支部長表彰を受けられました。ご本人はもとより本会にとっても名誉なことであり、大変嬉しいことであります。

ただ本会の恩人でもあり、功労者のお一人である池田由太郎先生が病床に臥しておられますことが気懸りなことではありますが一日も早いご全快を祈りつつ三〇〇人会員のために今年も素晴らしい企画をとりいれながら前進して参りたいと存じます。

本日は両先生の祝賀会を兼ねての新年会といたしましたので時間の許すまでご歓談頂きたいと存じます。

新年に向けて

市橋千鶴子

村田会長様はじめ会員の皆様お元気で新春を迎えられ、まことにお目出度うございます。

また、昨年春の叙勲に際し、長年の法曹界へのご貢献に対して勲三等瑞宝章を受けられました酒井博先輩、ならびに昨年秋の叙勲において、格別の教育界へのご功績に対して勲五等双光旭日章を受けられました副会長井上定男先輩のご栄誉に対し、謹しんでお慶びを申しあげます。

両先生の栄あるご叙勲は、とりもなおさず当会の栄誉であると存じ、まことに有難いことと存じます。

この重ね重ねの祝賀のお席に、池田由太郎先生がお元気でご出席しておいでになられましたら、どのようにお喜び遊ばされましたことかと、長いご病気が残念でなりません。

申し遅れましたが、昨年七月には、会長様はじめ多数の会員の皆様から、母校学員会から私への表彰に対し盛大なお祝いをして下さいまして、あのように感激したことは近来ございませんでした。遅ればせながらこの席を借りて心から御礼を申しあげます。

当日の感謝の気持ちとして、母校中央大学百周年募金に当会を通じてさらに追加寄付をさせて頂きましたが、ついででございますので募金状況を記憶の範囲内で申し上げますと、法人一五億円目標に対し達成額約二一億円、個人三五億円に対し約一〇億円、総計五〇億円の目標に対して達成額約三一億円で達成率六二％の由でございます。

個人募金が低調のなかで当会は、昭和五三年に国立白門会として独立してから今日まで七年、昭和五七年五月に支部承認を得てから僅か三年足らずで支部の目標額二〇〇万円を一〇〇％達成してさらに目標を三〇〇万円に増額し、その目標達成も果されたという素晴らしさで、学員会の数ある支部のなかで当会ほど見事な成果を挙げられた支部は他にはないのではないかと存じます。

これもひとえに村田会長様の会発展への並々ならぬお心入れならびに会員の皆様お一方お一方の熱い愛会、愛校のお気持ちのあらわれではないかと存じ、今更のようにこのように立派で温かい白門会のお仲間に入れて頂いたことをこのうえなく嬉しく思います。

どうぞ本年もよろしく、そしてこのお席をお借りして皆様の一層のご健勝をお祈り申しあげて新年の挨拶とさせて頂きます。

バッカスによばれて再び甲斐の里へ……

能味寿哉

十月六日（土）朝八時半、一橋大東校舎の門前に集まった白門会のメンバーと夫人方（会員外の方も数人）は、山崎厚生部長の元気な司会で村田会長のあいさつの後、有志提供の自動車に乗りこんだ。

風間副幹事長からは井上（正）氏からご寄付があったことや今日の経路についての説明も行われた。一号車（関氏）に玉利、堀田、山崎の三氏、二号車（丸本氏）に会長夫妻、能味、山崎夫人、三号車（風間氏）に福谷副会長、渋谷、滝、杉本の三夫人、四号車（新倉氏）には島村、坂田、和久、磯野の夫人方という割り当てで八時四五分出発。

中央高速道はこれまでも度々通っているので、皆さんもリラックスして車窓の眺めよりおしゃべりに笑いがたえないようだった。薄曇り空だがパッと強い日差しが入ったりする。

九時半、談合坂でトイレ休憩。一宮、御坂料金所で高速をおり石和町の商店街を抜けていくと「歓迎　モンデ酒造」の大看板が見えてきた。駐車場には十時半近くの到着。一行はきれいな中村さんの案内

で洗ビン室、充てん室、製品作業室、仕込みタンク（二万リットル）などを見て回ってお目当ての広い試飲会場に入った。社長も中大ＯＢという心安さで、飲み放題のだいご味に浸ったが、ここの試飲はケタ外れのサービスぶり。スイートワイン、メロンリキュール、玉子リキュール、チェリーブランディ、かりん酒、高麗人参酒、グレープジュース、ピーチジュース、モンデウィスキー、モンデブランディといった実にバラエティに富んだ飲み物が大きな器にみたされていて、幾つもの団体客の婦人たちが好みに応じてワイングラスを傾けているシーンが豊じょうに見渡されたことである。入り口でも即売をやっていたが、一通り飲みおわるともうすっかりいい気持ちで体が軽く浮くように覚えた。「錦鯉の泳ぐ美しい町」というキャッチフレーズの石和町を発ったのは十一時七分だが、会社からすてきな化粧びんに入ったモンデワインを一本ずつお土産に頂けたのは、多摩有数の酒問屋・関さんの顔のおかげと皆さんも大喜びしていた。

車は八分後原田農園へ着いた。甘い一宮の白桃やネオマスカットを試食させてもらったが、有志はハサミを借りてブドー畑の中を右往左往してにぎやかな眺め。ここまで順調にきて時間が余り気味とかで、少しゆっくり休みをとることにしたので、夫人方の買い物も熱があがっていたようだ。ちなみにネオマスカット一かご（三キロ）二四〇〇円、巨峰は一キロ一四〇〇円。口直しのお茶を頂きながら、会員の久保田氏が十月四日一〇チャンネルの（教育問題を考える）番組に出演して堂々所信を述べる機会があったという話を聞いた。うっかり見損った私は残念なことだった。

農園を発ったのは正午。天気も曇ったり晴れたりで笛吹川の流れが少しばかり詩情を漂していた。十分ほど走って石和温泉郷の中の甲州蔵屋敷に着く。希望者というが結局全員が車をおりて見学の列に並んだ。入館料三〇〇円↓二十人以上団体割引で二五〇円也。ブドーの甘い香り一杯の果実館で見かけた統計表の一つ。（左記参照）

続いて信玄館の暗がりでは、名物鎧の写や武田氏略系図をみてやや興奮ぎみな山崎さんの皆さんに説明する声が聞こえていた。ラストの宝石館に入ると、一六〇kgの白水晶、三八〇kgの紫水晶に、日本一の紅水晶という丸玉が時価千万円とあってしきりに感嘆の声があがっていた。土産品売り場を一べつしていた玉利氏が馬肉干肉を一袋求めて、私と新倉氏に試食をすすめる一コマもあった。

午後一時出発した車は、甲府バイパスから左手に善光寺を見てじき愛宕トンネルを潜った。武田歩道橋から塩部、湯村温泉とすぎ、目指すサントリーの山梨ワイナリーに着いたのは、一時三五分。ここでも「ウェルカム」の大看板が一行を暖かく迎えた。甲府市街が眼下に一望できる小高い駐車場にパークした後、一通り資料展示室を巡ったが、何人かは先刻ご承知で足早に試飲ルームに向かう。私もその一人で、今年とれたというレゼルブのさっぱりした甘味が何ともいえずうまかった（試飲の大ぶりなワイングラスはお土産に贈られた）。数年前、旧職場の三〇人位とやってきた折は、予約満員で体験できなかったバーベキューが今回の大きな楽しみ。円卓の三台に思い思いに席を占めて、まずはワインの乾杯となる。私のテーブルは、村田会長を囲んで丸本氏に、渋谷、杉本、滝の三夫人が笑顔でワイングラスを掲げた。きょうの料理は山盛りのマトンに椎茸、ピーマン、人参、さつまいも、玉ねぎ、きのこがついて一人前一八〇〇円也（パンも）。マトンが牛豚になると二〇〇〇円、ロース肉だと二二〇〇円、魚貝もとなると二五〇〇円というわけ。しかしバーベキューにはマトンが一番。ワインを頂きながらよく焼けたアツいマトンをほおばるとモリモリ元気がわいてきた。

お腹もいっぱいになったところで即売所をのぞいて干しブドウをまた賞味したり、楽しみは次々とたえない感じだった。

全国生産高に占めるシェア（%）

	山梨県	山形県	長野県	岡山県	福島県	宮城県	和歌山県
ぶどう	26	13	7	8			
もも	32	12	15		21		
すもも	40	8				8	8

午後三時五分にワイナリーを後にした一行は、適当に車のシートを変えて違った顔ぶれでの話がはずんでいた。ミレーの油彩で有名な山梨県立美術館にも立ちより、美術の秋にふさわしい高尚なムードにもひたるはずだったが、ご覧になった方も多いとて割愛。四時には再び中央高速に乗った。私は村田会長夫妻と山崎夫人と乗り合わせたが、ご参加下さった渋谷夫人は民謡の先生で白頭山節が上手とか、杉本夫人は日光和楽音頭の名手、和久夫人もいろいろ多趣味とか噂話が愉快だった。また田舎へのおいしい土産物に、赤坂もちや柿山の話が出たり、九段の坂口、神田のあわ平といった名産店や、府中の肉屋、いせやによく足を運ぶという山崎夫人のお話も帰路車中での格好の話題になった。

四時四五分、八王子インターの料金所を出ると、国立・府中八kmのガイド板が目に入った。地元ではたまらん坂に近い菓子の木のチーズケーキがおいしい。またカプチーノのハンドメードのケーキもうまい…とか情報通の夫人方とのおしゃべりに茶々を入れる運転手の丸本氏や、タバコを静かにくゆらす村田会長も、五時すぎにはぶじ終わる今回の親睦日帰り旅行にごく満足されていたことだった。

五九年度 実施報告

◆組織部

一、昭和59年度卒業生の把握。

二、母校百周年記念名簿の照会に対する報告。

三、会員の消息の把握。

◆厚生部

一、警視庁見学会
S59年6月2日（土）16名参加。広報課員の説明で「警視庁参考館」「警視庁通信司令本部」「警視庁交通情報センター」等を見学、昼食後解散。

二、市橋先生表彰に伴う祝賀懇親会。S59年7月21日（土）於一水園。17名参加

三、市民際に出店協力。
S59年11月3・4日。相談コーナー・バザー開設。

四、ワイン工場見学会
S59年10月6日（土）19名参加。①石和モンデワイン工場見学及びワイン試飲会。②甲府武家屋敷見学 ③甲府サントリーワイン工場見学及びバーベキューで昼食。

五、新年会及び井上定男氏、酒井博氏両先生の叙勲祝賀会。S60年1月26日（土）於信濃路。22名出席。

◆事業部

一、11月3・4日市民祭に参加。バザー及び法律無料相談。

二、あれこれ考える会
11月17日（土）於蘭燈園。国立市の市政と現状について

三、秋の市民祭と、春のさくらフェスティバルに実行委員として数名が実行委員会に参加。四か月前から他団体の実行委員や、市職員と企画会議・リーダー会議に加わり、また当日も進行係として祭の運営にたずさわってきた。

◆広報部

一、白門会ニュース第9号を5月1日付発行。

二、事業部・厚生部協力行事に参加して取材活動。

三、白門会ニュース第10号を10月1日付発行。

六〇年度 活動予定

◆組織部

一、昭和60年度卒業生の把握。

二、昭和59年度卒業生へ会員加入の勧誘等会員の増強。

三、本会組織規程の作成及び施行。

四、会員名簿の補充及び名簿作成準備。

◆厚生部

一、奥多摩周遊
6月2日（日）詳細は2頁参照。

二、納涼懇親会
7月13日（土）午後5時30分から一水園に於て。

三、ワイン工場及び甲府美術館見学会。10月5日（土）

四、市民祭に出店協力
11月上旬

五、新年会及び囲碁大会
S61年1月25日（土）信濃路にて、囲碁大会は1時から、新年会は5時30分から。

◆事業部

一、百周年記念講演会
5月25日（土）於国立商工会館。午後3時から。ぜひご来場下さい（詳細は別紙をご覧下さい）。

二、あれこれ考える会
6月下旬か7月上旬に座談会的形式で開催。

三、市民祭に参加
バザー・法律・税務・不動産の無料相談コーナー。バザーの出品物のご協力を会員皆様にお願い致します。

◆広報部

一、白門会ニュース第11号を5月1日付発行予定。

二、各部との連けいを密にして各主催行事への積極参加と取材。

三、白門会ニュース第12号を10月1日付発行予定

WISH

新年度となりました。60年度の会費を同封の振替用紙で納入願います。（総会当日のご持参も受け付けております。）会費二千円也。

母校創立百周年 募金へご協力を

毎号ご案内のとおり母校創立百周年の記念事業は、募金目標五〇億円です。総事業費は六三億余円ですが、次の主要計画が決定しております。

一、記念式典・功労者表彰・記念碑の建立

二、長谷川如是閑賞の設定・記念講演会

三、百年史・記念論文集・写真集等の発行

四、国際交流基金の設定

五、百周年記念館建設・学員名簿の刊行

すでに当支部からも募金委員十数名を出し、積極的活動を続けております。

昭和六十年一月十日現在、申込状況は、申込者数**三八名**、申込金額**二九六万円**、納入金額**二〇六万円**です。

当節、出費ご多端の折、誠に恐縮ですが、ご協力下さるようお願いいたします。

募金期限　昭和六三年六月三〇日

寄付金について免税措置があります。個人の場合、年額一万円を越えた金額は確定申告すれば課税所得から控除されます。

なお、募金について不明の点がございましたら村田　亘（〇四二五―七五―二〇二〇）にお問い合わせ下さい。

昭和59年度 国立白門会決算書

●自：昭和59年4月1日 ●至：昭和60年3月31日

収入の部 科目	決算	予算
年会費	138.000	200.000
学員会交付金	0	20.000
広告料収入	11.000	50.000
総会々費	60.000	120.000
寄付・祝金	190.000	100.000
100周年記念募金還付金	37.750	30.000
親睦行事会費	253.500	0
特別収入(バザー)	96.970	0
雑収入	10.673	0
前期繰越金	192.947	192.947
合計	990.840	712.947

支出の部 科目	決算	予算
印刷費	171.160	200.000
通信費	52.800	35.000
会議費	42.100	60.000
総会費	81.500	120.000
交際費	51.200	50.000
事務用品費	5.660	10.000
親睦行事費	327.325	0
雑費	57.707	0
寄付金	10.000	0
予備費	0	237.947
次期繰越金	191.388	——
合計	990.840	712.947

会計　堀田 勲　　会計監査　宍戸 勇之
〃　佐伯 進

昭和60年度 国立白門会予算案

●自：昭和60年4月1日 ●至：昭和61年3月31日

	科目	摘要	金額
収入の部	年会費	2.000円×100名	200.000
	学員会交付金	10.000円×2名	20.000
	広告料収入	白門会ニュース広告料	20.000
	総会々費	3.000円×25名	75.000
	寄付	寄付・親睦行事祝金	120.000
	100周年記念募金還付金	59.1.1～59.12.31 納入額 2.060.000円	103.000
	前期繰越金		191.388
	合計		729.388
支出の部	印刷費	ニュース2回 90.000×2	180.000
	通信費	会員連絡	60.000
	会議費	役員会他	45.000
	総会費		90.000
	交際費	他支部総会祝金他	60.000
	事務用品費		10.000
	親睦行事費		200.000
	雑費		60.000
	予備費		24.388
	合計		729.388

中央大学学員会国立支部（国立白門会）部組織規定（案）

（目的）
第一条　この規定は中央大学学員会国立支部規約（以下「本会規約」という。）第二条の目的達成のために部組織に関することを定め、国立白門会（以下「本会」という。）の効率的な運営を図ることを目的とする。

（部組織）
第二条　本会規約第五条の目的達成のため次の部を置く。
一　広報部
二　事業部
三　厚生部
四　組織部

（部役員）
第三条　前条各部に次の役員を置く。
部長　一名
副部長　若干名
部員　若干名

（部の任務）
第四条　本規定第二条に定める各部の任務は、次のとおりとする。
一　広報部
(1)　会報等発行に関すること。
(2)　会報等に掲載する広告の収集に関すること。
(3)　その他広報に関すること。
二　事業部
(1)　本会主催で行う会員ならびに会員以外の市民を対象とする事業の計画・運営に関すること。
(2)　他団体等が実施する事業・行事等の協力等に関すること。
(3)　会員の研修に関すること。
(4)　その他の事業に関すること。
三　厚生部
(1)　本会が主催する会員を対象とした福利厚生、親睦等に関する行事の計画・運営に関すること。
(2)　その他厚生に関すること。
四　組織部
(1)　本会員の消息の把握に関すること。
(2)　会員名簿作成に関すること。
(3)　会員の増強及び組織強化に関すること。
(4)　本会規約・規定等に関すること。
(5)　その他組織に関すること。

（役員の選出）
第五条　本規定による役員の選出は、部長・副部長については理事の中から、部員については会員の中から選出し、役員会で決定する。

（役員の任期）
第六条　本規定の役員の任期は、本会規約第九条の定めるところによる。

（規定の改廃）
第七条　本規定は役員会で改廃する。

附則　この規定は昭和六十年四月一日から施行する。

緑ゆたかな環境の保全をめざして
緑地設計施工管理
環境衛生販売請負
法面種子吹付工事
関東薬品造園株式会社
国立市谷保6660
Tel (75) 4101(代)

土地・家　アパート・マンション 貸家・仲介・管理
売買・仲介
売買の事・建築・法律・税金の事等無料でご相談いたします。お電話でも結構です。
（学員特に優遇）
（有）久保田商事
代表取締役　久保田 利雄
国立市西2－20－10
（富士見通り音高前）
TEL 0425-75-2244(代)

LIQUOR STORE
since 1910
SEKiYA
スコッチ＆チョコレート
西友ストア　東隣り
国立市中1－9－30